

ボッチャが 運ぶ笑顔



目指すは高得点



得点の判定をしている手前の2人は、ボランティアです



休憩時には、会話が弾みます



逆転を狙って「エイッ」。手前の白いボールが的玉です

ボッチャは、パラリンピックの競技種目になっている、みんなで楽しめるスポーツです。このスポーツをリハビリとして行い、こよなく愛しているグループ。それが、ひまわり会です。

ひまわり会は、オアシスで六か月間のリハビリを修了した約二十人が集まり、平成十一年に結成しました。現在会員は四十三人です。ボッチャを選んだのは、オアシスのリハビリで行ったスポーツの中でも広い場所を必要としないことと、誰でもいっしょに競技ができることから。

ボッチャは南ヨーロッパが発祥地で、ルールはカーリングに似ています。最初の競技者が投げた的玉に、各競技者の手玉をどれだけ近づけることができるかという競技です。手玉の近づけ方は自由で、手で投げる・転がす・足でけるなどいろいろな方法があります。手足が不自由な競技者もいるので、板を競技の補助者に持つてもらい、手玉を転がすこともできます。

練習は月一回オアシスで、約三時間、三対三の団体戦を二か所に分かれて行います。競技をスムーズに進めるため、オアシスに登録しているボランティアの皆さんに、審判やボ



ひまわり会とボランティアの皆さん

「ボッチャの魅力は、リハビリを兼ねてみんなと話しながら、笑顔で楽しく競技ができることです」と創設メンバーで幹事の三吉頼直さん（62歳・小堤）。「私たちの会は、県内では強豪です。過去四回、県大会の団体戦で優勝。ことは、今月行われる関東大会の個人戦に三人出場が決まりました。しかし、全国には、もっと技術のある団体がたくさんあります。目標は、全国大会への出場です」と会長の小野謙二さん（72歳・伊勢原町一丁目）。これからも健康を維持しながら、技術の向上も目指し励んでいきます。

ール配りなどの手伝いをお願いしています。練習中は、皆さんにこやかな笑顔がよく見られますが、一投一投が勝敗の分かれ目になるため、自分が転がした玉を追う目は、真剣そのものです。

どろんこも楽しいよ！

6月9日に「こめからくらしへ…埼玉西部市民の会」主催による田植え体験が、大仙波の水田で行われました。参加者は18人。約300平方メートルの田んぼを、40分ほどかけて苗を植えました。参加した子どもたちは、どろんこになりながら「土がにゅるにゅるしてた」「植えるのがおもしろかった」と、ふだんなかなかできない体験を楽しんでいました。



お母さんと一緒に田植え体験

イギリス・フランスの絵本に親しみました



絵本の朗読に聞き入る皆さん

市立美術館の特別展にちなみ、ボランティアによる絵本の朗読会が、6月10日・16日に同館で行われました。両日で26人のボランティアが、みずから選んだ「ピーター・ラビット」などのイギリス・フランスにまつわる絵本を朗読しました。訪れた方からは「とても聞きやすく、皆さん上手ですね」と、好評でした。

地域の子どもの安全を守ろう！

川越西高校・霞ヶ関西中学校・霞ヶ関西小学校と地域の13自治会が連携して、5月から生徒の登下校の安全を守るため「子どもあんしん登下校推進事業」を行っています。同高校では、この地域に住んでいる警察OBの皆さんによって、同校生徒だけでなく地域の小中学生が登下校する際の巡回も行っています。自治会の皆さんは、地域を通学する子どもの安全を見守っています。市自治会連合会理事・大笠自治会長の野中慈園さん（72歳・笠幡）は、「自治会と地域の学校が協力して、透き間のない巡回を進めていきたいですね」と話していました。



夕方、生徒の安全を見守ります



オープンを迎えた福菜出荷グループの皆さん

一年後をめどに店舗を広くし、ベテランの近隣農家の皆さんが作る野菜も置いて、地域のみんなで盛り上げていきたいと考えています。

直販所を作ろうと考えたのは三年ほど前から。地域の安全な野菜を地域の方に消費してもらおうと、国の支援を受けて直販所を建設しました。「メンバーが若いので、すべてが勉強しながらです。地域の皆さんのことばに耳を傾け、皆さんに親しまれる直販所にしていきたいですね」と代表の吉澤喜芳さん（40歳・中福）。

七月の定休日は、毎週火曜日です。



店内の様子

福菜出荷グループの皆さん

福原地区に農産物直販所「福菜」が、五月三十日にオープンしました。「福菜」を

運営しているのは、福原地区

を中心とした二十歳から四十

歳までの農業を営む二十人で

結成された、福菜出荷グループの皆さん。毎日、新鮮な野菜や花など、約八十品目を販売しています。開店時間は、午前十時から午後五時三十分。